

## 2022年3月期 第3四半期 決算説明会(電話会議) 実施概要

### 1. 実施概要

- (1) 日 時 : 2022年1月31日(月) 15:30~16:15...アナリスト・機関投資家向け  
16:45~17:15...メディア向け
- (2) 出席者 : 執行役専務 経営戦略本部長 佐藤 清輝、執行役専務 財務戦略本部長 林 伸和
- (3) 内 容 : 第3四半期決算概要、質疑応答

### 2. 主な質疑応答(要旨)

- (1) 2022年3月期 第3四半期実績について

#### Q1. 売上収益について、オーガニック国内の3Q単期は若干減収ですが、どういう状況でしょうか。

A1. オーガニックの国内は、前年3Q単期は巣籠り需要による寄与がありました。今年は落ち着いていることに加えて、冬物のアパレル関連の取り扱い物量の減少が影響しています。また、インバウンド需要が見込めず化粧品関連も物量が落ちている状況です。

#### Q2. 3Q単期の営業利益は計画比で+0.4億円の上振れという理解で良いですか。また、4Qに追加で織り込んだリスクの考え方を教えて下さい。

A2. 営業利益は、3Q単期で+0.4億円の上振れです。3Q単期では、(自動車やアパレル関連等の)ネガティブ要因による下振れをフォーディング事業の収益性の向上がカバーし、ほぼ計画通りに推移しました。4Qに織り込んだリスクの内訳は、火災影響による関東等の代替拠点からの輸配送コストや半導体不足・新型コロナ影響拡大を織り込んでいます。

#### Q3. 国際物流の計画上振れの要因を教えてください。

A3. 特にフォーディングにおいて、航空では貨物スペースの不足、海上では北米の港湾労働者の不足やコンテナ船滞留によるコンテナ不足などにより、引き続き運賃高騰が続いていることが要因です。

#### Q4. 通期見通しの営業利益を375億円に据え置かれていますが、現時点での半導体不足・新型コロナ影響拡大で具現化している影響があれば教えてください。

A4. 3Qではバンテックの主要顧客の自動車生産台数が伸び悩み苦戦が続いており、また、冬物のアパレル関連も取り扱い物量が少ない状況でした。自動車については4Qに生産台数の回復が見込まれますが、一部半導体以外の自動車部品の入荷が遅れている状況も出てきており、4Qにも影響が出る可能性があります。

#### Q5. (親会社株主に帰属する)四半期利益(純利益)の進捗は、トルコリラ安等の影響で計画対比を下振れているという認識で良いですか。

A5. トルコにあるMARS社により、トルコリラの為替差損が約20億円、また、同社の税金費用が約10億円増加したことにより計画を下振れています。MARS社は大半をユーロで取引していますが、各費用はトルコリラで支払っています。その為、MARS社のユーロ建ての資産・負債において為替差益が発生し税金費用が増加していますが、同社のリラベースの財務諸表をユーロ換算する際に為替差損が発生しています。

- (2) 当社グループ会社の物流センターにおける火災について

#### Q6. EBIT以下の通期業績予想を“未定”としていますが、火災に係る追加費用により見通しが立たないのでしょうか。

A6. 建屋は家主(賃貸人)が付保していますが、保管していた顧客製品等の損害は夫々保険での処理を検討しており、各顧客との契約に基づいて対応することになります。その他で発生しうる費用としては近隣の方々への補償等が考えられますが、夫々個別に対応しており合理的に見積もることが困難な為、EBIT以下の通期業績予想を“未定”としています。但し、基本的に保険で処理ができるものと想定しており、莫大な損害にはならないと考えています。

**Q7. 火災に係る費用は PL 上のどの科目に計上されるのか教えて下さい。**

A7. 3Q で売上原価に計上している約 2 億円は、主に関東から西日本エリアに向け出荷している輸配送コスト等であり、関西地区に代替拠点稼働するまで当面発生してくると思われます。徐々に減っていくとは思いますが、12 月で約 2 億円が発生していた為、4Q にも 6 億円程発生することが見込まれます。その他、近隣の方々への対応費用等は、営業外の費用(その他の費用)として発生する可能性があります。

**Q8. 火災損失として 3Q で約 1.2 億円を計上していますが、火災損失に対する保険について詳細を教えてください。**

A8. 3Q では自社の固定資産滅却損や従業員・近隣の方々への補償等で約 1.2 億円を計上しています。保険は、建屋については家主(賃貸人)が付保していますが、保管していた顧客製品等の損害は夫々保険での処理を検討しており、各顧客との契約に基づいて対応することになります。

**Q9. 火災に関して、保管していた顧客製品等には保険適用とのことですが、逸失利益は保険対象になりますか。**

A9. 逸失利益については保険の適用対象にはなりません、各顧客との契約に基づいて対応することになります。

**Q10. 焼損した舞洲営業所は、建替えになるのでしょうか。今後の対応について教えてください。**

A10. 恐らく建替えになると思いますが、建替えるかどうかは家主(賃貸人)の対応となり、各種調査等が終わった後の対応になると思います。また、当社としては“お客様の物流を止めない”ということを一に、複数の代替拠点で対応を行います。中期的には、2022 年 6 月に舞洲営業所に代わる拠点の稼働を検討しており、そちらでオペレーションを行っていくこととなります。

**Q11. 舞洲営業所の再建に際し、別途メディカルセンターを再建する計画はありますか。**

A11. 舞洲営業所の再建に関わらず、GDP(医薬品の適正流通基準)対応のメディカルセンターの必要性は認識しており、計画的に進めています。

(3) その他

**Q12. マネジメントの新体制を踏まえて、今後の考えがあれば教えてください。**

A12. 2022 年度からスタートする新中計に向けて若返りを図り、持続的な企業価値向上をめざしていきます。高木氏は入社以来、製造・流通系顧客等の現場や、SB(ソリューションビジネス)事業、3 PL 本社営業で経験を重ね、現在は中国代表を務めており、当社事業の全方位で実績があります。

**Q13. 高木新社長の就任にあたり、方針変更などはありますか。**

A13. 中期経営計画の大きな方向性は、ビジネスコンセプトである“LOGISTEED”をどのように具現化、実現していくかです。次期中期経営計画は現在策定中であり、お示しできるようになりましたら発表いたします。

**Q14. 国内物流において、どういう領域を強化していくのか成長戦略を教えてください。**

A14. 危険物や GDP 対応を含めた医薬品関連の物流センターの機能拡充、輸送力の強化、温度帯管理に対応した物流センターの拡充・強化などが必要と考えています。

**追Q. 温度帯管理や輸送力の強化は、どのように強化していくのでしょうか。**

追A. 顧客動向に対応していくこととなりますが、拠点の新設や既存拠点の機能強化なども様々検討しています。他には、製造系顧客の製造ラインの一部を請け負うなど付加価値の高いサービス提供にも注力していく考えです。

**Q15. 今後、危険物倉庫を設置する候補地があれば教えてください。**

A15. 危険物倉庫は法令による広さ制限等もありますが、危険物需要の拡大に対応する為、当社の既存拠点の一部区画を有効活用して、全国規模で拡充していきたいと考えています。